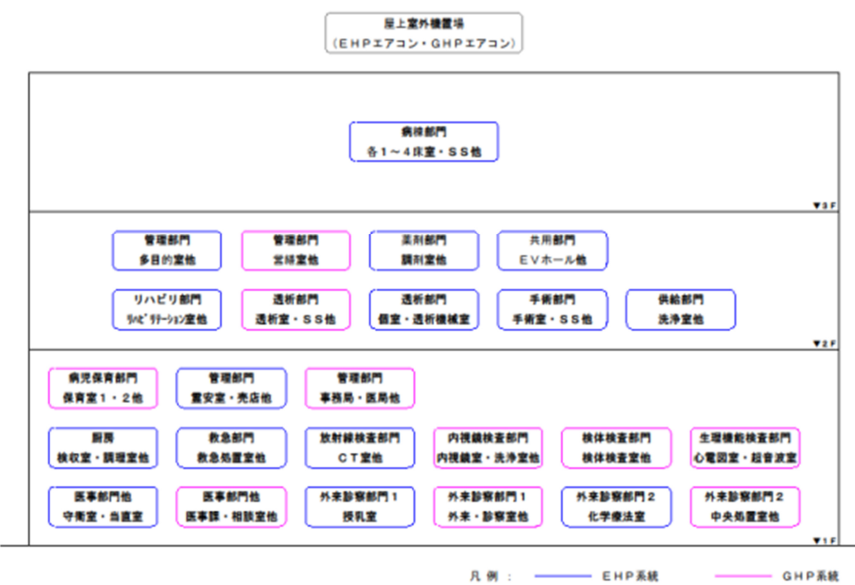


■空調設備

- ・長時間運転が必要となる病室棟ゾーンは、耐久性を考慮し電気式エアコン(EHP)を設置し、年間を通した利用者の体温調整負担軽減に配慮します。
- ・定時運転する共用ゾーンは、豪雪地に適したLPGガス式エアコン(GHP)を積極的に採用します。
- ・空調条件が一般居室と異なる放射線室や透析機械室、テナント扱いとなる売店は、電気式冷暖同時型マルチエアコン、又は単独系統の電気式シングルエアコンとします。
- ・外壁面に接するWC及び給湯室は、凍結防止用とし電気パネルヒーターを設置します。
- ・ベッドに長時間滞在する病室棟及び透析室への空調は、風を感じさせない吹出口を採用し、快適性を保ちます。
- ・感染症対策として病室及び外来待合は、ウイルス抑制空気清浄装置を設置します。



■融雪設備

- ・融雪範囲は、病院西側緊急車両進入車路アプローチ動線、病院東側利用者アプローチ動線の2ヶ所を想定します。
- ・融雪設備の熱源は、非常用発電機との共通化にて、毎年使用する事により油の流動を施し、劣化防止を防ぎます。地上式オイルタンク950ℓ×8基を設置し、災害時の油漏れ防止とポータブル暖房機への対応を可能とした、灯油とします。
- ・熱源機は、融雪ゾーン毎に単独で屋外近隣に設置する方式とします。

■換気設備

- ・隙間風の吹込みによる、温熱環境や空気質の変動を緩和するため、建物全体が常に等圧か若干の正圧となるよう、エアバランスを考慮した換気計画とします。
- ・感染症対策として、十分な換気量を確保することにより二酸化炭素濃度を低減します。
- ・3階病棟は、病棟専用の空気調和機にて新鮮外気を供給し、各病室へ吹出、各病室トイレ・ユニットシャワーから排気を取り空気調和機へ還し、顕熱交換器にて熱を交差し外気温を緩和させ省エネルギーを図ります。又、各病室内の吹出は、風を感じさせない吹出口を用い、利用者への不快感を低減します。
- ・集中換気系統の給気側は外気処理空調機とし、フィルターによる塵埃除去と、必要な加湿、加温等を行えるものとします。
- ・厨房、手術室、透析室、各階共用廊下等、運用スケジュールや温湿度条件が他と異なるゾーンは、室毎に単独の空気調和機、各換気設備を設けるものとします。
- ・病棟系統、透析系統、各階共用廊下系統の加湿空気は、各単独の空気調和機にスチーム二重管を内蔵し、蒸気ボイラーより安定した加湿を供給します。
- ・術場系統、中材系統の加湿空気は、電極式としウイルス感染防止を図ります。
- ・厨房、手術室、透析室以外の一般居室は、外気負荷低減のため、全熱交換気扇の単独換気とします。
- ・厨房は、冬期の加温のみを行う外気処理機、フード排気に対応した大風量系統の排気を単独系統とし設けます。
- ・天井扇は、センサー発停の他、手元スイッチで風量の強弱と発停を任意操作できるものとします。
- ・全熱交換気扇は、スケジュール設定や低外気温時の自動凍結防止運転を可能とします。又、CO₂センサー付とする事で、人員の増減にて自動で風量調整し、室内の二酸化炭素濃度を低減する、CO₂センサー付マイコンタイプとします。
- ・トイレや倉庫に、排気風量に応じた排気ファン又は天井扇を設置します。

■排煙設備

- ・原則として自然排煙設備(建築工事)にて対応します。

■自動制御設備

- ・建物の規模に応じた、シンプルで使いやすいシステムとします。
- ・壁掛けタッチパネルで、ウィークリータイマーの設定や各種警報を一覧できるものとし、夜間の警報に備えて守衛室へ一括系統の移報を行うものとします。
- ・簡易的な自動制御設備を設けます。

■給油設備

- ・敷地内に灯油備蓄用として、オイルタンク950ℓ(市販品)×5基を設置します。
- ・オイルタンクは、備蓄燃料の経年劣化に配慮し、融雪熱源と非常用発電機で共用とします。
- ・熱源機械室内にオイルサービスタンクを設け、オイルポンプで給油を行うものとします。
- ・オイルポンプはギアポンプに比べて騒音振動が少ないカスケードポンプとします。1階階段下に設置とします。